

|  |                  |
|--|------------------|
| 部会名：鋼橋腐食部の補修技術に関する<br>合理化と新展開研究部会  | 部会長：田村 洋（横浜国立大学） |
| <p>1. 構成員（幹事3名，部会員25名）</p> <p>幹事長：石井博典（横河ブリッジ）</p> <p>幹 事：田井政行（摂南大学），芳賀堯（パシフィックコンサルタンツ）</p> <p>部会員：阿久津貴紀（富貴沢建設コンサルタンツ），中澤洋介（トニチコンサルタンツ），藤田敏明（川田工業），西尾陵（巴コーポレーション），大木奎一（IHIインフラシステム），内藤秀斗（エイト日本技術開発），谷一成（高田機工），手塚寛人（オリエンタルコンサルタンツ），樋口亮（横河ブリッジ），木村雄歩（宮地エンジニアリング），篠塚裕介（IHIインフラ建設），酒井康成（駒井ハルテック），佐藤優花（日本ファブテック），行藤晋也（建設技術研究所），鈴木一（佐藤鉄工），成田徹也（三井住友建設鉄構エンジニアリング），荒巻拓朗（コスモ技研），吉田玲音（総合技術コンサルタント），石井希（開発虎ノ門コンサルタント），丹藤修平（JFEエンジニアリング），高沢優人（パシフィックコンサルタンツ），山田雄（テクノブリッジNKE），齋藤剛（IHIインフラシステム），阿久津絢子（東京工業大学），前田純輝（首都高速道路）</p> |                  |
| <p>2. 活動方針</p> <p>鋼橋の腐食補修の方法として，一般的に高力ボルトによる当て板工法が施されている．当て板工法の研究は広く行われており，鋼技研においても「多視点からの補修補強設計に関する研究部会報告書（R2.6）」で報告されているが，本部会では，最新の知見や技術を盛り込み，従来の研究成果を更に深めたものとする．</p> <p>具体的には，</p> <p>WG1：残存母材断面を効果的に活用した当て板工法の設計</p> <p>WG2：ICT技術を活用した先進的補修法の検討</p> <p>の2つのWGを中心に活動を進めていく予定である．机上の調査や議論のみでなく，現地調査，実験，解析を行うことで，部会員の経験と知見を高めるとともに，将来に続く交流を深めていきたい．</p>   |                  |
| <p>3. 具体的な活動計画</p> <p>○WG1：残存母材断面を効果的に活用した当て板工法の設計</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・腐食部の当て板事例（特に設計事例），既往の研究事例の情報収集</li><li>・腐食当て板部の効率的な設計方法の検討</li><li>・実験や解析による提案設計方法の妥当性の確認</li></ul> <p>○WG2：ICT技術を活用した先進的補修法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・計測方法の情報収集</li><li>・3Dプリンタに関する情報収集</li><li>・接着方法の情報収集</li></ul> <p>※準備会を2024.3/15に実施し，第一回全体部会を2024.5/27に実施予定．</p> <p>その後，2～3か月に1回の全体部会と，2つのWGでの活動を実施予定．</p>  |                  |
| <p>4. その他 部会運営上の問題や運営幹事会に対する要望、連絡事項等有ればご記入ください</p> <p>現状では，特にありませんが，活動が進んだ際には実験・解析・計測などの実施も視野に入れていきたいと思いますので，ご支援よろしく申し上げます．</p>  |                  |